

第1時間目 「情報を伝える絵(図)を描こう」展開案

(1) ねらい

図についての多様な描き方を認識させる中から、製図のルールの必要性を実感させる。

(2) 準備

(教師) OneUpシート、製図用立体(人数分)、製図用紙、提示用製図見本

(生徒) 三角定規、直定規、分度器、鉛筆、ディバイダ(コンパス)

(3) 展開

学 習 活 動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法
学習係が、事前にふり返しシートを、個々に配布しておく			
本時の学習内容を知り、学習のめあてを持つ。	5分	身の回りの「図」を思い起こさせたり、小学校で学習した立体の「展開図」や、美術のデザイン画などを参考にして、製図見本を図に描き表すことを理解させる。	【関心・意欲・態度】 【B規準】身の回りに活用されている図に気づくことができる。
製図見本(Vブロック)を、自分なりの工夫を加えながら、特徴を伝える絵(図)として描き表す。	30分	製図見本の立体について、それをまだ見たことのない人に、その特徴などをきちんと情報として伝えることができるような図になるように工夫をさせる。 「Vブロックの特徴を図で家族に説明するにはどんな図にするか」などの問いかけで、工夫を促す。 情報を伝える図として、文章による説明などを加えてもよいことを伝える。 机間巡視によって、学級全員の取り組みを見取る。作図の進行状況をも、言葉がけによって評価し、作業への集中を促す。 周囲の生徒からの支援も積極的に活用させる。	【A規準】身の回りに活用されている図に気づきそれらの特徴を活用して作図できる。 (OneUpシート) 【工夫・創造】 【B規準】立体を自分なりの工夫を加えて図で描き表すことができる。 【A規準】効果的な工夫を加えて立体を図で描き表すことができる。 (観察、作品)
友達の作品を見て、人によって描き方が様々であることを、認識させ、誰が見ても情報が正確に伝わる図にするためには、図法を学ぶ必要があることを理解させる。	15分	誰が見てもわかる図とは、自分なりの工夫を凝らすことよりも、誰が描いても同じ図になるような図法が必要になること実感させる。 OneUpシートに、「図としての条件」や「図法を学ぶ意味」などを書き出させる。	
学習係が、ふり返しシートを回収する。			